

カッター体験漕艇実施要領

1 艇指揮・艇長等

指導員3名が交代で乗船する。

指揮；高橋指導員、島瀬指導員、(予備；新谷指導員)

ほか2名は、指導員が交代で乗船し、子供の乗船補助、離着棧の補助、見張りを行う

2 ポンツーン補助指導員

2名が交代で担当し、カッターの離着棧の補助を行う。

うち1名は、タラップが危ないため、必ず補助を行う。

3 岸壁上の補助指導員

1名が交代で担当し、タラップ乗降の補助、乗降整理を行う。

タラップ乗降は、安全のため1名ずつ行う。

4 漕艇要領

(1) 体験漕艇は、安全のため原則、防波堤の内側で行う。

(2) 1回、20～30分程度を目途に行う。

(3) 途中で休憩を5分程度とる。

5 受け

指導員(母)が交代で担当し、時間厳守で体験漕艇を進める。

(時間に遅れた者は、後回しとする。)

6 強風時の対応

カッターの船尾にロープ(長さ約100メートル)を取り付け、漕艇体験を行い、帰りはロープで引き寄せる。

7 その他

(1) 熱中症対策に十分注意を払う。

(2) 子供が小学生以下の場合は、父兄同伴とする。

カッター（端艇、短艇ともいう）について

1 起源

18世紀頃、軍艦等に搭載されたボートであり、救命艇や連絡艇として使用されていた。現在では、機付き（エンジン付き）のボートがほとんどである。

2 種類

9m型（オール12本）、6m型（オール8本）がある。

その他7m型、4.8m型もある。

海洋少年団では、主に6m型を使用している。

3 カッターレース

(1) 全日本カッター競技会

9m型カッターを使用し、2,000メートルのコースで行う。

海上保安大学校、防衛大学校、東京海洋大学、下関水産大学等が参加する。

(2) 水産・海洋高校競技会

9m型カッターを使用し、1,000メートルのコースで行う。

(3) 6m型カッターを使用した各地でのレース

横浜、神戸、大阪、四日市、敦賀、名古屋、下関巖流島、八戸、宇部、広島、徳山、若松、防府、今治等で実施

4 ピンネース

9m型カッターより大きく、主に帆走を行う。（全長9.5m、オール14本）

5 漕艇訓練

海上保安大学校、海上保安学校、防衛大学校、海洋大学や海洋高校等で、漕艇訓練を行うことにより、シーマンシップを養う目的で行われている。（防衛大学校では、総端艇訓練として、突然号令をかけ、現業務を中止して吊上げ状態のカッターを降ろす訓練もある。）

6 その他

(1) カッター訓練を行う所

- ・海上保安大学校（呉）、海上保安学校（舞鶴）
- ・防衛大学校（横須賀）、海上自衛隊（横須賀、舞鶴、呉、佐世保等）
- ・商船大学（東京、神戸等）、水産大学校（下関）
- ・水産高校（又は海洋高校）

沖縄水産、隠岐水産、小樽水産、男鹿海洋、館山海上技術、大島海洋科学、境港総合技術高校等

(2) オール（9m型）

長さ4.3mと長さ4.2mがあり、4.2mは船首と船尾のみが使用する。